

2024年5月9日
横須賀商工会議所
かながわ信用金庫
日本政策金融公庫横浜支店国民生活事業

廃棄するウニを「葉山ウニ」ブランドとして事業化 ～横須賀商工会議所と葉山漁業協同組合の全面協力の下、夢を叶えて創業～

かながわ信用金庫栗田支店と日本政策金融公庫（略称：日本公庫）横浜支店は、葉山ウニの養殖業を開始するくぼたマリンファーム（事業者：窪田千春）に対して、創業資金を協調して融資しました。

現在、気候変動により海水温度が上昇していることが原因でウニが大量発生しています。この大量のウニが、アワビやイセエビ等海洋生物が主食とする海藻類を食べつくしてしまい、磯焼けが問題となっています。また、このような海藻で育ったウニは中身がやせていて商品化されておらず廃棄せざるを得ないことは漁師達の悩みの種となっていました。窪田氏は水産高校出身で以前から水産物に強い興味を持っていたことから、この現状を問題視していました。「廃棄されるウニを商品化したい」、「海洋生物の漁獲量を増加させたい」、「地域への社会貢献をしたい」という強い想いで、養殖ウニの商品化を決意しました。

創業計画の当初は、独自での販路開拓や自宅での養殖等事業化までには相当の時間を要する見通しかつ投資額も多額であったことから、大幅な計画のブラッシュアップが必要でした。横須賀商工会議所の複数回にわたる経営指導・助言や窪田氏の創業への強い想いによる行動力により、葉山漁業協同組合の全面協力を得ながら、販売面、仕入面、生産面ともに事業化に目途がたったことから、今般「葉山ウニ」の製造販売を行うこととなりました。特に苦労した点は、廃棄されるウニにどのような餌を与えて養殖ウニを生産するかという点でした。先行事例に倣い、キャベツを与えることを検討しましたが、試行錯誤のうえ、葉山産の「ワカメ」と「昆布」を与え、天然の餌にこだわった、混じりっ気のない天然のウニの養殖に成功しました。

素材にこだわり、葉山で獲れた「ワカメ」と「昆布」を使用し、「葉山ウニ」ブランドとして販売数量を増加させていくことにより、地域ブランド品の確立と漁業者が抱える課題解決に取り組み、地域への社会貢献を行います。

日本公庫としては、地域の金融機関、商工会議所、商工会等と連携しながら、今後も地域社会に貢献できる創業者を支援していく所存です。



【真名瀬の様子】



【養殖のウニ】

<融資先概要>

商号	くぼたマリンファーム	事業内容	葉山ウニの製造販売
住所・連絡先	横須賀市佐原 1-20-28 TEL : 090-1160-1960	養殖場	真名瀬

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 横浜支店 国民生活事業 (担当: 伊藤、吉上)
〒231-8831 神奈川県横浜市中区南仲通 2-21-2 (TEL: 0570-039574)